

手話の美しさと直感性に魅了された中学生が 10年後、東アジア初のアシヨカ・フェローに

世界中の優れた社会起業家を発掘・支援するアシヨカが、東アジアで初となるアシヨカ・フェローに認定した大木洵人氏。慶應大学在学中の2008年にシユアールを設立し、オンラインの手話辞書（スリント辞書）や手話による観光案内（シユワイド）などを展開している。

大木氏は中学生のときにテレビで手話を見て、「なんて美しい、直感的な言語なんだらう」と魅了されたという。

自分独自の社会起業を

手話に惹かれた大木少年だが、当時なりたかったのは、国境なき記者団のようなジャーナリスト。誰も知らない事実を取材し、自分にしか発信できない記事として世の中に伝えたかったのだ。高校では写真部を立ち上げ留学もしたが、写真の才能に不安を感じて迷う。そして大学1年の夏、自分にしかできないことをもう一度考えたとき、やはり手話だった。今までにないアイデアで、もつと手話が

使いやすい環境を提供できれば、戦場に行かなくても世の中の役に立てる。その1年後に起業というスピードだった。

世界共通の手話インフラ

スリント辞書は、手話の動きをキーボードで再現し文字に翻訳する（その逆もある）。これは日本語だけでなく、世界各国の言語に対応できるシステムであり、アシヨカも特に評価した点だ。



上/他の多くの社会起業家のように強い原体験はないが、しがらみや固定観念にとらわれない良さもあるという大木氏。
左/実際にテルテルコンシェルジュに接続し、手話通訳の実演を見せてくれた。
下/スリント辞書のパーソナルキーボード画面。左右の手の形と位置を選ぶことで手話から文字に変換できる。



もうひとつ現在の力を入れている事業が、ビデオチャットを利用した遠隔手話通訳（テルテルコンシェルジュ）。パソ

■シユアールグループ
神奈川県藤沢市遠藤4489-105 SFC-IV
Tel : 0466-48-7640 (KIEP事務局内)
ホームページ : <http://shur.jp>
E-mail : info@shur.jp

コンやタブレットPCの画面を通して、手話通訳者と会話ができるシステムだ。お店や公共機関の窓口などで手話を通じなくても、コンシェルジュが通訳してくれる。例えば110番や119番に電話しても、言葉が出なければ助けは呼べないが、そうしたことの解決にもなる。2011年2月に藤沢市の30カ所に端末を設置して、1週間24時間対応で公共インフラとしての実験をした。

テルテルコンシェルジュは手話以外にも、英語、中国語、韓国語との通訳サービスも提供。導入には初期登録費用5万円と月額利用料1万4800円がかかるが、すでに全国の施設や店舗に300台以上設置され、広がり始めている。

夢をあきらめない社会に

耳が聞こえないのはハンデキャップではあるけれど、それで全てを諦めている人も少なくない。手話が使いや社会になれば、聴覚障害の人がもつと楽しむことができ、仕事や社会で活躍する道も広がるだろう。自分には手話への強い興味と、アイデアを形にする技術がある。それが大木氏が起業を選んだ理由だ。

シリーズ
社会起業家

シユアールグループ 代表

大木洵人氏に聴く